相手先ブランド製品を生産供給すること。

メリットは安定受注、稼働率向上、相手ブランド利用、製造集中、技術水準向上。

デメリットは相手先ペースの生産・価格設定、自社ブランド・販売チャネルの衰退、顧客リレーションの分断。

OEM 導入時の留意点は納期遵守、生産体制整備、製品開発力、営業力の維持向上。